

# 1 本校の研究の概要

研究部 岡田 仁

## 1. 1 研究主題と内容

### 1. 1. 1 研究主題

平成29年度(昨年度)より、研究主題を以下のように設定した。

### 世田谷中学校が育てる「21世紀型能力」 ～各教科・領域・領域が育てる深い学びを通して～

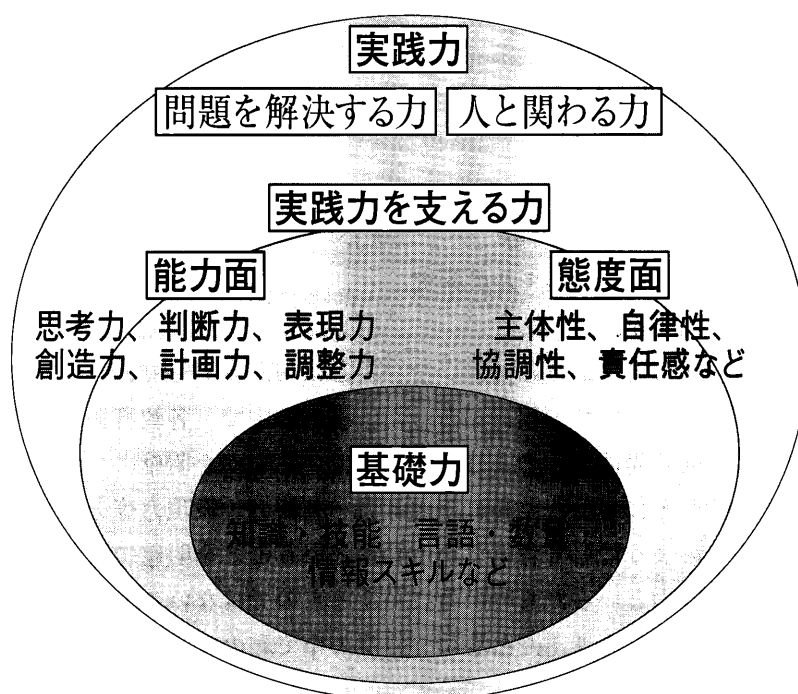
本年度(平成30年度)は第2年次となる。本校の公開研究会は年度初めの6月に行うので、本年度の成果を平成31年度(令和元年6月)の公開研究会で発表する。

### 1. 1. 2. 研究の目的

#### (1) 研究主題設定の理由

##### ① これまでの研究の成果と課題

本校の教育目標は「個性的で人間性豊かな人格をつくる」「創造性豊かな人間を育てる」「敬愛の精神に溢れた人間を育てる」の3つである。これまでも本校ではこの3つの教育目標のもと教育、研究活動に取り組んできた。そこでは一定の成果は見られたが、改善すべき点もある。それは、時代の流れ、生徒たちの変化などによるが、これからもこの教育目標のもとよりよい教育課程の編成へ向けて検討を行うことはより一層必要となるのではないかと考える。本研究の以前の研究として、2013～2015年の3年間「世田谷中学校で育てる「21世紀型能力」－各教科・領域で支える力と3つの学習形態－」という研究主題のもと研究に取り組んできた。今年度から3年計画で取り組む研究は、この研究に続く研究として位置づくものである。前回の研究では、中学校での主たる学習は各教科・領域の授業の中で行われることを考え、それぞれの教科の中で、資質・能力の視点から見たときに、どのような力が育てられているのかについて検討した。これらの力と、これまでも行ってきた「総合学習」「生活学習」といった学習形態との結びつきの中で養われる力を考え、国立教育政策研究所が示している「21世紀型能力」(国立教育政策研究所2013)を踏まえ、本校が考える「21世紀型能力」として右図のようにその能力を整理し、カリキュラム研究に取り組んだ。各教科・領域の取り組みを通して、世田谷中学校が育てる「21世紀型能力」について整理を行ったが、その整理についてはまだ十分とは言えず、今後の課題として残された。また、各教科・領域が育てる力の中には、教科横断的に育てているような力もあり、それについての整理には手が付けられていないことも課題であった。このようなことから、前回の研究主題を踏襲し、3年計画で研究に取り組むことにした。



## ② 次期学習指導要領とこれから求められる教育

平成29年3月31日に学習指導要領が改訂され、平成30年度から移行期間に入る。次期学習指導要領では、何を教えるかというだけでなく、育成を目指す資質・能力を明確に示すことを目指し、これまでの学習内容が整理され、示されたことが大きくこれまでと異なる。資質・能力としては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理され示されている。そして、これらの力を育てるためには、学習の質を高める視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であるとされている。深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であり、これは各教科・領域等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることが求められている。「主体的・対話的で深い学び」はこれまでも大切にされてきたことであり、本校においてもそのような視点から日々の授業改善につとめてきたところである。しかし、学校研究という視点で見たとき「主体的・対話的で深い学び」が具現化されてきたかという点と不十分であった。特に、「深い学び」については、各教科・領域の「深い学び」とはどのようなもので、また、どのように指導することにより生徒それぞれの学習が「深い学び」につながるのかについては不明確であり、それを具体化し、意図的に指導することが必要だと考える。副題として「各教科・領域が育てる深い学びを通して」としたのは、このようなことを意図したものである。

## (2) 研究の目的

中学校での学習の中心は教科の学習である。「21世紀型能力」を育てようと考えたとき、まずは、各教科・領域で行われている学習をもとにして、その育てようとしている力を明確にし、それを踏まえ、学習内容や学習形態を検討することが必要である。したがって、研究の目的のひとつは、各教科・領域における学習内容や学習方法・形態の検討を、「21世紀型能力」を育てるという視点から行うことにある。そして、その授業内容や学習方法・形態について検討する際に「深い学び」の実現が大切な視点となってくる。これが第2の目的である。すなわち、各教科・領域が考える「深い学び」の具体化である。そして、その各教科・領域の取り組みをどのようにカリキュラムに位置づけていくのかを考え、さらに教科間の連携と協働について探っていきたい。本校が育てる「21世紀型能力」は、各教科・領域が育てる資質・能力が生徒の中に統合され育っていくものである。本校では、この各教科・領域の学習を「基本学習」とし、これに加えて「総合学習」「生活学習」という学習形態を加え、3つの学習形態を設定し、この3つを結びつけていくことによって、「21世紀型能力」がよりよく育てられるものととらえてきた。このとらえ方そのものについては、今後も生かしていきたいが、時代の流れにともなって、再検討が必要となってきた。特に、教科化される道徳と生活学習とのつながりを明確にし、生活学習の内容を吟味することが必要であり、これが3つ目の目的である。以上のような目的を達成することを通して、これから社会へ出て行く生徒たちに必要な力を育み、よりよい中学校教育を行うことに向かう教育課程の編成と指導を行っていききたい。

### 1. 1. 3. 研究の内容

#### (1) 深い学びと思考スキルの研究

##### (1)ー1 第1年次

各教科・領域における「深い学び」とは何か、そして、それをどのように日々の授業を通して実現していくかについての検討を行った。検討の中で、各教科領域の授業において生徒たちが見方・考え方を働かせる場面をどのようにつくっていくのかを明確にし、そのための手立てを考えることが必要だということになった。特に、思考力・判断力・表現力等を育てることを中心として考えたときに、それをどのようにして育てていくのかということを確認にすることは容易なことではない。それは思考力や判断力といったものは目に見えるものではないことによる。そこで、思考力・判断力・表現力等を育てることを考えたときに、授業の中でどのような手立てをとって授業を行っているかに目を向け、それを思考スキルとして考えてみることにした。

授業をとらえるときに、学習過程を問題解決過程としてとらえ、「問題発見」「計画、情報収集・精査・選択」「解決の実行」「振り返り」の4つの場面があることを共通理解し、それぞれの場面において、どのような思考スキルが用いられているのかを各教科領域の授業をもとにして次の表に整理した

授業	問題発見	計画、 情報収集・精査・選択	解決の実行	振り返り
国語 1	問の設定	文章の読解 考えの相違発見	二者択一しない 視点の転換 多義性の理解 想像力の活用 文章の取舍選択メタ認知 情報収集の手段選択技能	文章の分析 情報を関連づける
国語 2	比較する 情報を結びつける	分析の視点を共有 要素に分解 連続性を見出す 差異を見出す	比較する 情報を結びつける	作品の特徴を図化し分析 関連情報の比較 物語の特徴の抽象度をあげてとらえる
社会	分析する 関連づける 分類する 類推する	分析する 類推する 構想 選択する	分析する 比較する 評価する 選択する 類推する	
数学 1	多面的に見る	条件を具体化する	図をかく	
数学 2	帰納的に考える 予想を記述する	結論から考える (解析的に考える)	結論から考える (解析的に考える) 解法を比較する	類推する
数学 3	数理化 既習事項とのつながりを捉える	数理化 既習とのつながりを捉える 図をかく(具体的に考える)	図をかく(具体的に考える) 批判的に見る	
数学 4	具体的な場合で考える 結論や方法をふりかえる	具体的な場合で考える	たたき台をもとに検討する	結論や方法を振り返る
理科 1	比較する 共通点に着目する		着眼点を変える 既習の知識と比較する 生活経験と比較する 多様に考える	知識を利用する
理科 2		先を予想する	批判的に見る 表現力	表現力
音楽	多角的にとらえる 既習の知識・経験から 推測する		法則に気づく 目的を絞って知覚する 情報をとらえる	
保体 1	関連 類推 具象化	課題の身体化 イメージの身体化 分類 関連 具象化 統合	イメージの融合化 統合する	
保体 2	既習事項をもとに 予想する	必要な情報を選択する 情報を共有し自分の課題と 結びつける	情報を自分に結びつける 情報を共有し自分の課題と 結びつける 課題解決の場面・方法を補足	
家庭	既習経験とつなげる	多面的、多角的に見る	多様に考える	
技術	多面的に見る	条件の具体化 客観視する	対策後のリスクと安全の確保	安全で効率の良い作業 (環境)の検討
英語 1		情報を分かりやすく整理する	伝える内容を想起し発話する 多面的に見る	評価・改善する 多面的に見る
英語 2	情報を付け足す 背景知識と文法知識を統合 する	情報をステップ化する	情報を付け足す	内容の緊密性を高める 言語の違いに気づく
英語 3		既有知識と結びつける	具体的に説明する	図式化する コンセプトマップを用い話 した内容を概念化
学保		視覚情報を整理する 聴覚情報を整理する 条件を具体化する		比較して考える

整理した表をみると、各教科・領域に共通するスキルがあることがわかる。それは次のようなものである。

「比較する」「類推する」「批判的にみる」「関連づける」「具体化する」「分類する」  
これらの思考スキルについては、教科横断的に育てているものととらえることができる。

## 1-2 本年度（第2年次）

### 1-2-1 「思考スキル」から「思考の手だて」へ

昨年度は、各教科・領域の授業において、共通する6つの思考スキルを見出すことができた。しかし、それぞれのスキルが各教科・領域においてどのような部分が共通であり、どのような部分がことなるのか、また、それぞれのスキルがどのような目的で用いられているのかその共通点や相違点についてはまだ明らかとはなっていない。また、上の6つの思考スキルは各教科・領域で抽出した授業の中から出てきたものなので、すべてを網羅しているとは限らない。そこで、本年度は、異なる教科間で「思考スキル」のとらえ方がどのように違っているのか、また、同じであるのかを調べ、教科横断的に汎用性のある「思考スキル」の抽出を試みた。

方法の概要は次の通りである。

- ① 1つの思考スキル毎に異なる数教科の教員が集まって小グループをつくり、それぞれの教科でのそのスキルのとらえ方を出し合い、共通点、相違点をグループ毎にまとめ、発表した。
- ② ①のものを研究部で集約してまとめ、さらにそれを全体で検討した。

以上の方法によって検討を進めていくうちに各思考スキルについての細かい点において、各教科・領域や各個人でのとらえ方の違いや共通点が分かってきた。また、本校で議論を重ねるうち、一般に言われている「思考スキル」とは、少し違ったものになってきた。本校では、問題解決のときの生徒の思考のプロセスと教員が期待する学習の深まりへの効果に重きを置き、「思考の手だて」という言葉を使うことにした。1つ1つの「思考の手だて」の名称も設定し直した。また、各教科・領域でのとらえ方には若干の違いがあることも考えて、なるべく細分化せず、包括的にとらえてまとめることとした。それをまとめたものを次の表に示した。

思考の手だて	思考過程	「深まり」への効果	留意点
分解	複雑な要素からできている問題を、いくつか要素や段階に分ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 問題を単純にして考えやすくする。</li> <li>■ 要素に分けることで、対象の骨子の抽出・着目を促す</li> </ul>	「分類」との違い ↳分解：1つにつながっているものを分ける。 分類：多数の物の集合体をある基準で分ける
分類	ある観点・視点をもって、複数の対象を同類のものごとにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ねらいの切り口となる知識の再構成</li> <li>■ 既知の情報に照らしてグループを作ることで、対象を特徴づける</li> </ul>	比較との結びつきが強い。 ↳分類前後に比較が存在（特に前は必ず） 「ラベリング」の効果（既知の情報への「置換」）
比較	複数のものを比べ、対象の特徴に着目する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1つのものをよく理解する（特徴の把握）</li> <li>■ 全体に共通する特徴や法則性、方向性などを見出す</li> </ul>	「分類」「結合」「転換」との関連がつよい。 ※他の手立てとのかかわり、意識化（言語化）の場面多い
結合	表現や視点の違う別の知識や考え方、考察を持ち込み、それらと合わせて考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 異なる視点を結びつけ考えることで、見えてくるものが広がり、解決の質を深める</li> </ul>	2つの方向性 ↳ <ul style="list-style-type: none"> <li>・一見無関係のものから関連性を見出す</li> <li>・1つの視点だけでなく、多くの情報を関連づける</li> </ul>
転換	対象を別の視点からとらえなおす主観的なとらえ方を客観的なとらえ方と結び	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1つのものの特徴を見出す</li> <li>■ 共通の特徴や法則性、変化の方向性を把握する</li> </ul>	比較との関連がつよい。 「批判的にみる」*ことや極端な例を当てはめてみることもこの中に含む

置換	抽象的なものに具体的な物を当てはめる。または、その逆をおこなってみる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ モデルの想定やイメージの想起を促す</li> <li>■ 不可視の事柄への着目を促す</li> </ul>	具体化／抽象化*による置き換えフローチャート化や概念化すること、またそこから全体像をみることなどもここに含む。
推論	未知の課題を既知の似たもの、同類のものをもとに考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 根拠を明確に、未知のものについてとらえる。</li> <li>■ 状況に応じた最適な方法を検討する</li> </ul>	一般に推論の方法としては演繹、帰納、類推が考えられている。状況により、それぞれの方法の選択ができるようにすることも重要である

まず、複雑な問題を解決しようとするときそれを細かい段階に分けて考えることは必ずはあるのではないかということで、「分解」を加えた。「関連づける」は「複数の事項を合わせて考える」ととらえ、「結合」とした。「批判的にみる」は、どうしてもネガティブな意味にとらえられやすいので、「視点をいろいろ変えてみる」という意味で「転換」とした。「具体化する」は「抽象化」もあり、両者は区別がつけにくい場合もある（例：天体のモデルなど）ので「置換」とした。「類推」は「推論」の方法の1つで、他に「帰納」「演繹」もあるので、まとめて「推論」とした。

以上の「思考の手だて」は、問題解決に当たって、生徒が思考を進めるための手立てであると同時に、教師も思考を促すための支援の手立てとして意識するべきものである。1つの問題解決のためにすべてを用いなければならないということはない。しかし、「深い学び」に結びつくような授業を計画する場合には「思考の手だて」のいくつかは用いられると考えられる。

これから、授業を考えるときに、この「思考の手だて」を意識していくものであるが、「思考の手だて」は、生徒が考えるに値する内容があってこそのもので、内容に応じて選択して利用していくべきものである。思考の手立てだけが先行しても良い成果は得られないと考えている。

### (1)－2－2 「深い学び」のキーワード

一言で表せるようなものは深い学びにはならないとも思われるが、他教科・領域から見て、その教科等の特徴が分かりやすいように、各教科・領域から「深い学び」のキーワードを出し合いまとめた。それを次の表に示した。

教科等	深い学びのキーワード
国 語	文脈/背景、ことばと対象の関係性、視点、抽象化、確かさ、豊かさ
社 会	充実志向（学習行為を楽しむ、新しい課題を自ら設定、批判的思考（他者理解、自己を振り返る、コミュニケーション能力）、概念的知識（汎用的）
数 学	予想し見通しを立てる、実験や操作活動等の外的活動を行う、多様な方法を考え、比較する、数学的に表現し伝え合う、統合的・発展的に考える（一般化・体系化）
理 科	・実物・経験と結びついている。・意味も分かっている。・応用、関連づけ、選択
音 楽	授業で学んだことを生活・社会と関わるができる。
美 術	思考力、表現力、創造的、主体性、協力的
保 体	保健：心身と向き合う力、生活科・行動の変容、ヘルスリテラシー、 保体：課題の理解・共有、自己パフォーマンスの調整、ひらかれた身体（他者とともにパフォーマンスの向上に貢献しようとする言動）
技 術	社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等を踏まえた最適化ができる
家 庭	体験して課題設定する。総合的な思考力（広がり）。判断することができる。表現をすることで思考が深まる。（深さ）。発展的な持続性
英 語	英語を通じた教養、日本語力、言語の習得における知識、相手に伝わりやすい話し方、noticing、多角的な視点（ミクロ、マクロ）、客観的な視点（メタ認知）
学 保	根拠のある情報収集・選択、他者を理解し共感できる力、肯定的に人や社会と関わりを持てる力

各教科・領域が育てる「深い学び」とその手立ての具体については各教科・領域からの報告をご覧ください。

## (2) 生活学習と道徳

### (2)-1 初年度の取り組み

本校ではこれまで生活学習として、「社会領域」「健康領域」「体育領域」「芸術領域」「情報領域」「自然領域」の6つの領域を設定し学習を行ってきた。この学習の中に道徳の一部を位置づけるような教育課程をつくり教育活動を行ってきた。これには一定の効果があつたが、平成31年度から道徳が教科化されることをうけ、再検討が必要であると考えた。そこで今年度はプロジェクトチームをつくり、各学年における道徳の取り組みを整理することに取り組んだ。プロジェクトメンバーは各学年主任、各学年の研究部員、副校長、道徳主任で構成した。プロジェクトでは、道徳と生活学習の関わりについて検討した。その際に、生活学習と道徳の関わりを顕在化させるために、生活学習の主な内容と道徳の内容との関連を表にまとめた。以下に例として第2学年1学期の取り組みを示す。

内容	めあて・目標	自主、自律、自由と責任	節度、節制	希望と勇気、克己と強い意志	真理の探究、創造	思いやり、感謝	礼儀	友情、信頼	相互理解、寛容	道法精神、公德心	公正、公平、社会正義	社会参画、公共の精神	勤労	家族愛、家庭生活の充実	よりよい学校生活、集団生活の充実	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する	国際理解、国際貢献	生命の尊さ	自然愛護	感動、畏敬の念	よりよく生きる喜び
始業式	2学年の自覚を持ち式典に臨む	○		○			○								○							
メッセージカード作成	新人生に何を伝えるか					○			○						○							
鎌倉散策オリエンテーション	新学年最初の行事に向け、主体的に取り組む	○						○	○							○	○					
学年目標	年間目標達成のために														○							
活動計画書作成	活動目標、計画、計画書											○				○	○	○				
自己紹介カード作成	自己紹介、自己理解を深める								○													
クラス目標・活動計画	自己・自己、主体的					○	○		○						○							
鎌倉散策活動	班別行動を通して友達と協力し、楽しく規律ある集団生活を送る	○					○	○	○	○		○			○	○	○		○	○	○	○
学習目標・学級目標決め	どのような学級としたいか主体的、協力的に考える	○		○					○		○	○			○							
鎌倉散策マップ作成	班別行動を振り返る				○								○			○	○					
作文「2年生の抱負」	主体性・計画性・表現力	○		○					○													
鎌倉散策マップ作成	班別行動を振り返り				○								○			○	○					
避難訓練	安全の意識・緊急時の行動	○													○				○			
生徒総会	学校生活と責任		○	○	○		○		○		○	○			○							
全体練習・組会	協調性	○				○	○	○	○		○				○							
学年練習	自主的な行動	○				○	○	○	○		○				○							
全体練習・組会	主体的な取り組み	○				○	○	○	○		○				○							
学年練習	周囲との協力	○				○	○	○	○		○				○							
SOSシート	心身の健康			○		○		○	○	○	○	○			○				○		○	○
予行	計画性	○				○	○	○	○		○				○							
前日準備・組会	周囲との協力・計画性	○				○	○	○	○		○				○							
運動会	自主・自律・自立・協力	○				○	○	○	○		○				○							
運動会作文	成果と課題の把握			○	○																	
林間委員・レク係決め	主体性	○		○					○		○											
SOSシート	心身の健康			○		○		○	○	○	○	○			○				○		○	○



備がそのまま道徳の授業にはならないが、道徳教育としての効果は大きいと思われる。そこで、行事の準備と関連させた道徳の授業を要所要所に行うことによって、行事における道徳教育の効果が上がるものと思われる。本年度考案した道徳教材の一部の題材名を以下に示した。

- 【B6】あなたの声かけが大切な一歩に      【B6】卒業を前に・・・  
 【B7】公共機関利用で思うことあれこれ      【B7】電車を待つときに  
 【B8】合唱の朝練      【B9】芸発の有志活動って！？      【C12】感謝・奉仕（尾畠春夫）  
 【C15】運動会、勝ってもうれしくないのは？      【C15】運動会・集団の向上  
 【C17】伝統芸能の継承      【C18】行事（イスラーム）  
 【D19】命を育むことの困難さに目を向けよう      【D22】泣きみそ校長と弁当の日

以上のように考案した道徳教材をもとにして、各学年の教員が集まって、特別な教科道徳の年間計画案を作成した。これをもとに道徳教育の全体計画を作成し、公表する予定である。

## 1. 2. 研究の経過

本年度の研究は以下に示す様々な活動を通して行われた。

### (1) 校内研究会

校内研究会については、以下のように、概ね月1回のペースで実施した。

#### 平成 30 年度（2017 年度）

回	月	日		主 な 内 容
1	4	23	研究会	公開研究会に向けて 各教科・領域の平成29年度の総括と提案
2	5	11	研究会	公開研究会に向けて 各教科・領域の平成29年度の総括と提案
3	6	6	研究会	公開授業研究会の確認と各教科・領域の平成29年度の総括と提案
			教科部会	各教科・領域・領域における提案内容について
	6	16	公開授業研究会（各教科・領域の公開授業と協議会）	
4	7	6	研究会	公開授業研究会の振り返りと夏季研究会の内容について
5	8	24	夏季研究会	「深い学び」「思考スキル」についての検討と提案
	8	29	夏季研究会	講演：石井 英真先生（京都大学准教授） 「今求められる学力と授業・評価」
6	9	12	授業研究会(国語)	授業者：加儀教諭 「読む、そして詠む」 ～短歌を味わうことば～
7	10	12	研究会	思考スキルの研究まとめへの検討 道徳全体計画の検討
8	11	7	研究会	研究の方向性と方法についての再検討
9	12	18	研究会	次年度の研究計画について検討
10	1	9	研究会	各教科・領域のパフォーマンス課題と評価の共有
11	2	13	授業研究会(国語)	授業者：渡邊教諭 「「やばい」を考える」～「形容詞」とはどのような“ことば”なのか～ (英語科との連携を視座に ～ことばの「守備範囲」を意識し、表現での活用へ～)
12	2	25	研究会	各教科・領域のパフォーマンス課題と評価の共有
13	3	13	研究会	・次年度の公開研究会の日程決定と1次案内検討
				・次年度の研究計画提案と検討



## (2) 授業研究会

より実践的な研究と生徒理解を目的として授業研究会を実施している。この授業研究会は校内研究会の一環として行っているが、一般公開もしている。今年度は上の表の通り、9月12日と2月13日の2回実施した。

## (3) 教員研修会

今日的な問題を解決するために、指導的立場にある先生方を講師に迎え、以下のように教員研修会を実施し、本校のカリキュラム開発の推進に役立てている。今年度は上の表にある通り、8月29日に京都大学准教授の石井 英真先生にお話をいただいた。貴重な機会なので、附属世田谷小学校との合同講演会とした。

## (4) 渉外関係

### 1) 研修、研究としての学校訪問

毎年、多数の県または市区の教育委員会、研修機関、学校等が研究視察のため、または個人研修として本校を訪問されている。平成30年度の来校者は以下の通りである。また、教科教育に関する学会が主催する授業研究会などの会場として多数の方が訪問されることもあった。

年月日	人数	来校者所属等	受入教科等	用向き
2018 4/21	5		技術科	産教連会議
2018 4/21	7	東京学芸大学、附属世田谷小、 附属高校、日本女子大学、 昭和女子大学、攻玉社高	国語科	附属学校研究会プロジェクト
2018 5/3	5	静岡大、文科省、筑附中、 お茶中、国研	数学科	研究会
2018 5/8	3	東京学芸大学	社会科	授業見学(特別開発研究プロジェクト)
2018 5/11	1	ベネッセ	社会科	
2018 5/16		シンガポール教育省	学校	視察、音楽参観
2018 5/21	1		家庭科	
2018 6/1	1		テーマ研究 生活科学	
2018 6/5	16		学校	モンゴル教員スタディツアー
2018 6/5	1	東京ガス	家庭科	ナッジ授業
2018 6/8	1		数学科	授業参観
2018 6/9	5		技術科	産教連会議
2018 6/11	1		数学科	授業参観
2018 6/14	5	環境省、東京ガス、他	家庭科	授業見学
2018 6/22			数学科	TALISビデオスタディ
2018 7/8	5		技術科	産教連会議
2018 7/11	1		第2学年	道徳講話
2018 7/14	2		家庭科	活動ボランティア 打合せ
2018 7/15	5	静岡大、文科省、国研、筑附中、 お茶中	数学科	研究会

2018 8/30	1	NPOパレスチナ子供キャンペーン	社会科	テーマ研究講師（パレスチナ）
2018 8/30	2		テーマ研 音とダンス	テーマ研究講師（ダンス）
2018 9/2	7	東京学芸大学、附属世田谷小、 附属高校、日本女子大学、 昭和女子大学、攻玉社高	国語科	附属学校研究会プロジェクト
2018 9/2	5	静岡大、文科省、国研、 筑附中、お茶中	数学科	研究会
2018 9/4	4		保健体育科	授業見学
2018 9/6	1	東京学芸大学	技術科	技術
2018 9/7	1	代々木オリンピックセンター	家庭科	テーマ研生活と科学
2018 9/12	1	東京学芸大学	技術科	
2018 9/12	1	東京学芸大学	国語科	文学教育プロジェクト打合せ
2018 9/18	5	お茶の水女子大附属中	家庭科	家庭科
2018 9/20	1	東京学芸大学	家庭科	研究授業
2018 9/20	1	東京学芸大学	技術科	
2018 9/20	1	東京学芸大学	技術科	
2018 9/21	1	日本教育新聞社	家庭科	生活と科学打合せ
2018 9/21	1	東京大学院生	家庭科	生活と科学打合せ
2018 9/21	2	オリンピックセンター	家庭科	生活と科学打合せ
2018 9/21	2	駐日パレスチナ大使館	社会科	テーマ研究講師（パレスチナ）
2018 9/22	7	産教連	技術科	
2018 9/25	1	東京学芸大学	英語科	研究授業
2018 9/25	3	東京学芸大学	国語科	実習研究授業
2018 9/26	1	東京学芸大学	英語科	スピーチコンテスト審査
2018 9/26		TALISビデオ	数学科	スタディー撮影
2018 9/28	1		英語科	世中メディア研
2018 10/10	2	東京学芸大学	音楽科	教育実習生授業参観
2018 10/10	2	オリンピックセンター	家庭科	
2018 10/11	1	東京学芸大学	家庭科	
2018 10/12	1	東京学芸大学	英語科	
2018 10/12	1	東京学芸大学	数学科	
2018 10/13	7	東京学芸大学、外部、世小、 附高	国語科	
2018 10/17	1	静岡大	数学科	
2018 10/25	1		英語科	英語科研究会
2018 10/28	2	静岡大、文科省、国研、 筑附中、お茶中	数学科	研究会
2018 10/29	1	地財	音楽科	知財教育ヒアリング
2018 11/7	1	山口県教育長義務教育課	数学科	授業参観
2018 11/7	1	宇都宮大、国際大、世小、 体育ジャーナル	保健体育科	
2018 11/12	20	東京学芸大学	社会科	授業見学(スタートパスプログラム)

2018 11/21	1	パナソニック	社会科	パナソニック・セミナー打ち合わせ
2018 11/30	8	東京学芸大学	社会科	授業観察（フィールド研究）
2018 12/3	8	東京学芸大学	社会科	授業観察（フィールド研究）
2018 12/5	1	国立教育政策研究所	数学科	授業参観
2018 12/7	13	東京学芸大学	社会科	授業実践（フィールド研究）
2018 12/9	7	東京学芸大学他	国語科	文学教育プロジェクト打ち合わせ
2018 12/10	13	東京学芸大学	社会科	授業実践（フィールド研究）
2019 1/5	5	静岡大、文科省、国研、筑附中、お茶中	数学科	研究会
2019 1/9	4	東京学芸大学	数学科	3年授業参観
2019 1/31	2	女子栄養大学	家庭科	
2019 2/13	60	日本大学	数学科	1・2年授業参観
2019 2/14	1	東京学芸大学名誉教授	英語科	
2019 2/15	1	東京学芸大学	国語科	
2019 2/18	1	東京大学	家庭科	
2019 2/19	1	東京学芸大学	英語科	
2019 2/19	1	附属世田谷小	国語科	文学教育プロジェクト打合せ
2019 2/20	15	電通大	数学科	授業参観
2019 2/22	1	慶應女子高校		
2019 2/26	1	東京学芸大学	国語科	文学教育プロジェクト打合せ
2019 2/26	1	慶應女子高校		
2019 3/1	2	静岡大、岐阜聖徳大学	数学科	
2019 3/13	2	「住まいと暮らし」全教図	家庭科	生徒表彰
2019 3/16	5		技術科	
2019 3/24	5	静岡大、文科省、国研、筑附中、お茶中	数学科	研究会
2018 11/1～20	数名	早稲田大学院生	保健体育科	

## ②現職教員研修セミナー

以下に示すように、春休みと夏休み期間中を利用し、いくつかの教科が、現職教員や教員を志望する大学生・大学院生を対象としたセミナーを毎年、実施している。昨年度から、数学科では春の現職研修セミナーでは授業を公開し、その授業をもとにして授業づくりについての研修を深めるような取り組みを行っている。

- ・平成30年夏（数学科，理科，英語科）
- ・平成31年春（数学科，英語科）

## ③外部との連携プロジェクト

附属学校研究プロジェクト3件

- ・理科授業におけるアクティブラーニングの実現に向けた教員養成の在り方Ⅱ
- ・現代的課題を含む授業の学習形態による効果の違いと児童・生徒の意識変容についての考察  
～ワールドカフェ方式で考える時速可能な社会と自然を意識した授業の効果測定～
- ・文学教材と文学教育の融和に基づく概念化と言葉による見方・考え方の向上  
～文学教材で育む見方・考え方～

## (5) 出版・編集関係

### (1) 『教育と研究』No.46、No.47の発行

今年度は、研究主題に関連させ、特集「新学習指導要領実施へ向けての各教科の指導に関する内容」として編集、出版した。本校保護者を読者対象に定め、本校の教育に対して理解をいただくために、1年間に2号の発行を目指している。近隣の教育委員会、公立、私立中学へも発送した。

### (2) 『研究紀要 2018』（本冊子）の発行

本校の研究活動全般の記録と研究論文も加えて、『研究紀要』として発行した。全国の教育研究機関および国立大学附属中学校へ発送している。

## 1. 3 研究の課題

3年計画で現研究主題に取り組み、今年度はその2年目に位置づけられる。次期学習指導要領が告示され、これから社会へ出て行く生徒たちに育てる資質・能力が示された。本校では、社会の動向を踏まえながら、本校がこれまでの教育の中で大切にしてきたものを振り返り、これからの時代にあった形にどのように発展させていくのかを考えて研究を進めている。資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学び、見方・考え方、どれも言葉だけみれば流れてしまいそうだが、その中身は曖昧であり、それをどのように生徒たちの中に統合し、育てていくのかを考えることは喫緊の課題である。初年度は各教科・領域・領域の学習をつなげる視点として、思考スキルに目を向け、各教科等に共通する思考スキルを具体化してきた。今年度はさらに検討を重ね、思考スキルを一層明確にすると共に包括的に考えて「思考の手だて」としてまとめた。今後これを授業改善にどのようにして取り入れていくかは、さらに検討の余地がある。また、昨年から生活学習と道德の関係を再確認に取り組み。道德について各学年のカリキュラムを明確にし、道德教育の全体年間計画を作成した。今後はこれを踏まえて生活学習を見直し、必要な部分は再編することが来年度以降の課題である。

来年度も目の前にいる生徒たちのよりよい成長を目指し、研究を進めていきたい。

## <引用・参考文献>

国立教育政策研究所（2013）、平成24年度プロジェクト研究調査研究報告書

教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」研究代表者 勝野頼彦、国立教育政策研究所

後藤芳文ほか2名（2014）、学びの技 14歳からの探求・プレゼンテーション、玉川大学出版部  
新潟大学教育学部附属新潟中学校（2012）、この“思考スキル”で高める

思考力・判断力・表現力、明治図書

# 平成31年度 道徳教育の全体計画

中学校学習指導要領 総則の第1の2の(2)での道徳教育の目標	中学校学習指導要領 特別の教科道徳の目標
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。	よりよく生きるための基盤となる道徳性や責任感、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、他者との視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方を考えることを深める学習を通して、道徳的な判断力、実践意欲と態度を育てる。

## 東京学芸大学附属世田谷中学校の学校目標

- 個性的で人間性豊かな人格をつくる。
- 創造性豊かな人間を育てる。
- 敬愛の精神にあふれた人間を育てる。

## 東京学芸大学附属世田谷中学校の教育活動全体の重点目標（該当する内容項目）

ア 学習指導	自発的、計画的な学習態度を養う。
イ 生活指導	お互いの個性や立場を認め、尊重しあい、他者と共に高めあう態度を養う。
ウ 進路指導	将来を見通し、自らの向上に努め、社会に貢献しようとする態度を育てる。
エ 健康指導	心身の健康と体力の向上をはかり、よりよい生活習慣を身に付ける。

## 東京学芸大学附属世田谷中学校の道徳教育の目標

- 自分の個性を伸ばし、相手の個性や立場を尊重し、広い視野から自分の考えを深め、自分も相手も良くなる方法を考え、行動できる。
- 1年生 ・よりよい生活習慣を身に付け、自主的に行動し、個性を伸ばす。  
・いろいろな見方や考え方があることを理解する。  
・自らの行動を見つめなおし、常に向上を目指す。
- 2年生 ・他者に学ぶ謙虚さをもち、他者との関わりから自己を見つめ直す。  
・互いの個性や立場を認め、寛容の心を持つ。  
・自ら決めた目標を持って着実に努力し、やり遂げる。
- 3年生 ・集団や社会の一員としての役割と責任を自覚し、協力して向上に務める。  
・相手の立場に立って、互いの良さを認め、共に高め合う。  
・困難にぶつかってもあきらめず、よりよい理想に向かって実現を目指す。

## 中学校学習指導要領 特別の教科道徳の内容項目

- A 主として自分自身に関すること  
①自主、自律、自由と責任 ②節度、節制 ③向上心、個性の伸長 ④希望と勇気、克己と強い意志 ⑤真理の探究、創造
- B 主として人との関わりに関すること  
⑥思いやり、感謝 ⑦礼儀 ⑧友情、信頼 ⑨相互理解、寛容
- C 主として集団や社会との関わりに関すること  
⑩遵法精神、公德心 ⑪公正、公平、社会正義 ⑫社会参画、公共の精神 ⑬勤労 ⑭家族愛、家庭生活の充実  
⑮よりよい学校生活、集団生活の充実 ⑯郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度  
⑰我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ⑱国際理解、国際貢献
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること  
⑲生命の尊さ ⑳自然愛護 ㉑感動、畏敬の念 ㉒よりよく生きる喜び

## 東京学芸大学附属世田谷中学校の特別の教科道徳の年間計画

第1学年	第2学年	第3学年
1学期	1学期	1学期
1:A①、2:A①、3:A②、4:A②、5:A③、6:A④、7:A④、8:A⑤、9:B⑥、10:B⑥、11:B⑦、12:B⑧、13:B⑧、14:B⑧、15:B⑨	1:B⑨、2:A①、3:C⑬、4:B⑧、5:B⑧、6:A①、7:A③、8:B⑥、9:C⑩、10:B⑨、11:B⑨、12:D⑳、13:C⑫、14:C⑬、15:C⑭	1:C⑮、2:C⑮、3:C⑮、4:B⑦、5:D●、6:D●、7:A①、8:C⑪、9:A①、10:C⑮、11:A②、12:A④、13:A③、14:A③、15:C⑭
2学期	2学期	2学期
16:C⑩、17:C⑩、18:C⑪、19:C⑪、20:C⑫、21:C⑬、22:C⑭、23:C⑮、24:C⑮、25:C⑮、26:C⑮、27:C⑮、28:C⑮、29:D⑱、30:D⑱	16:C⑪、17:C⑮、18:C⑮、19:C⑫、20:C⑪、21:B⑦、22:C⑮、23:C⑫、24:A④、25:B⑦、26:D⑫、27:D●、28:D⑱、29:A④、30:B⑥	16:D⑳、17:A④、18:A④、19:C⑮、20:B⑨、21:B⑤、22:C⑪、23:C⑮、24:C⑫、25:A③、26:B⑥、27:C⑩、28:A⑤、29:A⑤、30:C⑮
3学期	3学期	3学期
31:D⑱、32:D⑳、33:D●、34:D●、35:D●	31:C⑮、32:C⑮、33:A⑤、34:A②、35:A③	31:D⑱、32:C⑬、33:C⑭、34:B⑦、35:C⑮

## 各教科等での道徳教育

国語	社会	数学
文章内容の把握や心情の推察、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自己を見つめ、他者を理解する資質を育てる。	国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として、集団や社会とより良く関わってこつための資質を育てる。	事象を数理的に解釈したり、数学的な表現を用いて適切に表現していく中で、道徳的な判断力を育てる。
理科	音楽	美術
自然への関心を高め、真理を追究し、他者と協力して自然愛護の精神と持続可能な生活をめざす態度を育てる。	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、国を愛し、他国を尊重する態度を育てる。	表現や鑑賞活動を通して他者や多様な価値を理解し共感することで相手を尊重し平和な社会を築こうとする態度を育てる。
保健	体育	技術
自他の健康に留意し、心身にかかわる生活の課題との向き合いを通して、他人を思いやる心や規範意識等を育てる。	スポーツや運動への積極的な参加を通して、公正な態度やフェアプレーの精神、対戦相手や仲間の尊重のような理念を大切にしようとする態度を育てる。	よりよい生活や持続可能な社会を構築するための基盤としての技術を身に付け、伝統・文化の尊重、自然愛護、情報モラル遵守の態度を育てる。
家庭	英語	学校保健
よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、望ましい生活習慣を身に付け、生活を工夫し創造する資質・能力を育み、勤労の尊さや意義を理解し、家族への敬愛の態度を育てる。	国際的な視点に立ち、多様なものの見方や考え方を理解し、平和的で公正な判断力や態度を育てる。	心身の状態を適切にとらえ生活習慣を改善させようとする態度や、他者との積極的な関わりを通して自他を尊重する態度を育てる。